

日高山脈が連なる南十勝夢街道「道の駅及びシーニックカフェちゅうるいを拠点とした地域内経済循環及び魅力発信事業」

十勝シーニックバイウェイ南十勝夢街道忠類地域部会

南十勝夢街道を結ぶドライブの楽しみは、国道、道道、町村道問わず、車窓から日高山脈が目に見え、四季折々の移り変わりと共に、その連山の表情が見られることです。高規格道路は、一段高く視界を広めてくれます。特に十勝晴れの冬は、稜線が刃物のように^{とが}尖って見え、真っ青な空の元、堂々たる勇姿を見せてくれます。春から初夏にかけては残雪が新緑の光景と混じり合っ、心地良いコントラストが生まれます。南十勝夢街道の会議でのこと、わが町から見える日高が最高であると、皆さん一步も譲らなかったことを思い出します。



シーニック
カフェちゅう
るいは町営牧
場の頂にあり、旧忠類村時代に、ハイキング道の休

憩場所として作られた^{あずまや}四阿を再利用して運営しています。日高山脈が包み込む雄大な景色は美しく、農業大国十勝に相応しく、食料自給率1,100%、400万人の食を支えるダイナミックで頼もしいメッセージも発信しています。一方、道の駅「忠類」には年間20万人以上の人が訪れ、大きな賑わいをみせています。昨年度、帯広開発建設部の支援で道の駅や国道からシーニックカフェの案内看板ができ、一層の誘客を見込んでいましたが、令和3年度はコロナ禍で断念、来年への開催に期待を繋げているところです。現在のカフェは9月



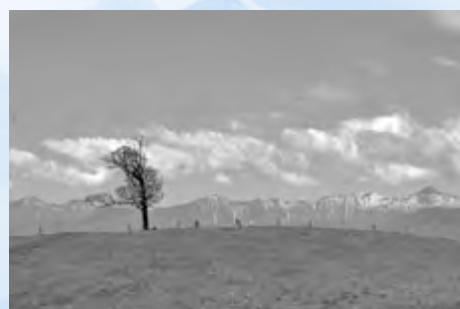
いっぱい立入り自由で、男女別のトイレも完備し、花壇が来訪者を歓迎してくれます。たまに放牧牛が集まってくることがあり、見ることも

できるかもしれません。柵で囲っていますが迫力を感じます。

道の駅「忠類」の近接エリアは、温泉宿泊施設、キャンプ場、直産品販売施設、パークゴルフ場、ナウマン象記念館、大型遊具を増設した水遊びができる公園があり、高規格道路の延伸に伴い、年々集客数が増加しています。また農畜産品の生産においてもユリ根を始めとして、畑作、酪農と都市部を支える生産空間としての価値も非常に高いのです。



このような地域環境の中で、忠類地域部会が主とするシーニックカフェちゅうるいは増加した集客に、更に地域をよく知ってもらうために、道の駅「忠類」、ナウマン温泉ホテルアルコにデジタルサイネージを設置し、近隣エリアの地域情報を発信しています。その結果、ホテルでの宿泊客からの問い合わせや、地域のレアな情報をもっと知りたいというお客様も多く、ホテルではカフェまでバスを送迎し、ミニツアーを実施するようになりました。



さて、地球の表面は厚さ100kmもあるプレートの動きでできており、遡ること今から1300万年前は、北米プレートとユーラシアプレートが北海道を縦断する位置にあったとされ、両プレートの衝突によって北海道の土台が作られたと考えられています。日高山脈は北米プレートがユーラシアプレートをめくり上げ、気の遠くなる時の流れでできたのです。

自然からの贈り物としてシーニックカフェちゅうるいから見える日高山脈は、他町村と競合しても、忠類地域部会として一番の絶景だと自負しています。丘から見えるのは牧場や畑、そして森林が幾重にも重なり、やがて日高の麓に繋がり、山脈はゆりかごのように大地を守っています。そのおかげで冬は晴天が続くのです。

ジオ（大地）がもたらした日高山系と開拓による田園風景は、異なった時間軸を共に歩んでいるのです。カフェは、毎年7月～9月の3カ月間週末にオープンしています。来訪者にはすばらしい眺望の中、癒しの空間とスタッフのおもてなしの心、音楽仲間のコンサートでのくつろぎ、非日常的な体験を通じて、全国からリピーターも集まっています。



経済の地域内循環はカフェの目的の一つでもあり、地域の飲食店が伸び悩んでいることから、地元飲食店のクーポン券や観光パンフレットの配布、フェイスブックによる情報発信は、多くのフォロアーを獲得しています。



新たなブランディング事業ですが、子どもたちを巻き込んだ学校シーニックバイウエイなど、コミュニティ・スクールの活動と連携し、地元の歴史や文化を知ってもらう機会を作りたいと構想中です。

スタッフの体験事業は、高齢化を含め今後の課題として取り組んで行かなければなりません。

カフェがモットーとするおもてなしの心について紹介したいと思います。まずボランティアスタッフですが、中高齢者の方が多く、定年退職者、忠類に移住して来た方、主婦の方が主となっています。恒例のアンケートの中、来訪者の自由感想を求める欄があるのですが、スタッフにとって一番の関心事でもあります。

どう感じられたのでしょうか。そこには温かい励ましや、感謝の言葉が綴られていました。



旅行中の方は、釧路に行く近道を尋ねられたり、地元で旨い店はないか、道の駅でのお土産は何が良い

か、ユリ根はどこで買えるか、指差した畑には何が植えられているか、牛は何頭くらいいるのかなど様々な質問が飛んで来ます。お互い打ち解け始めます。

移住を検討している来訪者は、地域の良い点や、生活の便利さはどうか、地域の人柄、冬は何度くらいになるのかなど。一番多かった質問は大きな総合病院までの距離についてでした。

アンケート2番目の関心事に、シーニックカフェの満足度をお金に換算すると、どのくらいになるとお考えですかという項目があります。平均すると集計結果100円～150円くらいでしょうか。でも平均にはバラツキがあることを忘れてはいけません。

こんなこともありました。カフェは駐車場から約80mあります。一人若い女性が訪れたときのことです。話をしているうちに、同行した父は足が悪く車に待たせてあるとのこと。思い出深い忠類の景色を見せてあげたいという彼女に、迷わず車をバラソルまで誘導してあげたこともありました。

今から55年前、私の地元の小学校の卒業記念に、日高山脈に惚れ込んだ担任の先生が、ベニア板6枚を縦に連ね、生徒達が持ち寄った色とりどりのはぎれを使い、忠類から見える日高山脈を貼り絵にしたことがありました。転勤する先生にとって、目に焼き付く日高だったのでしょう。懐かしい思い出と共に、景観のすばらしさはあの当時のまま、地域の人達に愛され続けています。

時代はどう変化するのでしょうか。変わらないもの、大切にしなければならぬものを守り、今後とも地域の魅力発信を続けてまいります。